



信濃の国

千

字 万 感

株式会社八十二銀行
代表取締役頭取 松下 正樹

長野県ほど「信州」や「信濃^{しなののくに}国」といった古来の地名を大切にしながら、現代でも愛着をもって使用している地域は珍しいかも知れません。「信州そば」や「信州大学」は固有名詞として定着していますし、長野県民のほとんどが歌えると言われる県歌「信濃の国」は、学校教育等を通じて歌い継がれています。

郷土を愛し、誇りに想う県民性は、親から子へと受け継がれてきただけでなく、気候風土からも育まれてきたように思います。「日本の屋根」と呼ばれる3,000m級の山々に加え、清流が織りなす雄大な自然は山岳リゾートとして世界にも通用する観光資源です。また豊富な水と澄んだ空気を活かし、明治・大正期の日本経済をけん引した製糸業を経て、「東洋のスイス」として名を馳せた精密機械・電子部品等の工業集積地は、日本の「ものづくり」を支える存在です。

さらに、個性あふれる文化・民俗は脈々と継承され、全国第2位を誇る77の市町村に今日も根付いています。今年は、新型コロナにより日程変更がなされたこともあり、7年目に一度、それぞれに行われてきた「善光寺御開帳」、「諏訪大社御柱祭」、「飯田お練りまつり」が同年に開催されることとなりました。さらに、6年ぶりとなる「穂高神社式年遷宮」を含めると、国内有数の伝統が偶然に巡り合う歴史的にも貴重な一年です（本誌が届く頃には、既にいくつかの行事は実施されています）。

大変喜ばしいことに、長野県は、「移住したい都道府県ランキング」において、16年連続して日本一に輝くことができました。独自色豊かな県内各地を味わい尽くことができ、長野県の魅力を再発見していただく契機にもなる今年は、より多くの皆様に長野県を体感していただけるものと期待しています。さまざまな対策を重ねた運営になるものと思われませんが、長野県内各地に当行が築いてきたネットワークを活かし、長野県が一体となった魅力発信に貢献したいと思います。自粛や制限などの重苦しい空気を振り払い、心待ちにしていた活力再生の新芽を皆様とともに、大切に育ててまいります。